



産業情報支援センターの運営組織である
(株)西条産業情報支援センター（愛称：サイクス）の各種情報をお知らせします。

今月は、市内企業の所有する様々な技術を紹介する「我が社の得意技」などについてお知らせします。

もっと詳しく知りたい方は…

○産業情報支援センター

TEL0897-53-0010 FAX0897-53-0011

Eメール info@saijo-sics.co.jp

サイクスのホームページもご覧ください。

http://www.saijo-sics.co.jp/

藤田社長は、日本の基幹産業を支える現在の基幹事業に加

現在の藤田社長は三代目。
藤田製作所は昭和11年に設立。出発時は食品機械や瓶類の製造を手がけていたが、大手重工業メーカーからの呼びかけにより製造に着手。昭和47年には西条鉄工団地に製造工場を建設し、鑄造から機械加工までの一貫生産体制を整備した。平成6年には他社鉄工部門を買収し、鑄造・加工・製缶の三部門体制を確立した。



▲ 地域貢献の思いを語る藤田社長（右）と齋藤製造本部長（左）

得意技は商品開発
「社内の課題解決の取り組みから、自社商品開発への道が始まりました」と(株)藤田製作所、藤田秀一郎社長は語る。

中学生の子どもがいますが、



▲ 自社で開発した廃油燃焼装置

地域貢献型鑄物商品の開発

え、自社商品開発による事業の展開を図り、両輪としての会社経営をめざしている。
自社商品の開発は、社内の課題解決の試行錯誤から始まった身近な商品である。鑄物の仕上げを効率化する鑄物仕上げ機械、各種廃油を使用する廃油燃焼装置（暖房用、温水用、蒸気発生用）および産業用廃油バーナーとして乾燥装置を実用化、さらには、産業廃棄物処理装置への応用も視野に入れていく。環境問題や原油高が叫ばれる現在、各種の展示会に出展し、脚光を浴びている。

（レポーター…技術相談室アドバイザー 和田）

「自社商品を皆さんに使っていただき、喜んでもらえるのが会社のやりがいです」と語るように、藤田社長の地域貢献に対する思いは熱い。



▲ 鑄物の特性を活かしたテント用の重し

長崎で運動会用のテントが風で飛ばされて問題になったとき、簡単に楽に設置できるテント用の重しがあればと思いい、製作してみました」と考案されたのが、テント固定用の重しである。鑄物であるため半永久的に使用でき、女性でも持ち運びが容易。鑄物の特性を活かし、学校名や日付を自由に付けることができ。また、地域貢献用商品として低価格で販売したいという藤田社長の思いから、商社などの販売網を通さず、学校や自治会からの依頼に基づいて製造している。



講演を行う丹治芳樹日本銀行松山支店長

講演の中で丹治支店長は、「愛媛県は日本の中でも特許出願件数が多く、他の産業集積地と比較しても高い水準である」と評価する一方で、「当地の強みである一次産品などの高付加価値化を図ることが、今後一層の地域活性化につながっていくだろう」と提言されました。

サイクスからの事業報告
日本銀行松山支店
丹治支店長講演会を開催

最新の経済動向を地元の産業・金融・行政関係者の皆さんに知っていただくことを目的に、日本銀行松山支店の丹治芳樹支店長をお招きして、「最近の景気動向と地域経済」と題した講演会を開催しました。